

平成 16 年度「特色ある大学教育支援プログラム」  
採択取組の概要および採択理由

大学・短期大学名	女子美術大学	整理番号	1-5-008
応募テーマ	主として大学と地域・社会との連携の工夫改善に関するテーマ		
取組名称	美大におけるサービス・ラーニングの実践 ーアートを通じた大学と医療・福祉施設との連携		
申請単位	大学全体		
申請担当者	横山 勝樹		
<p>(取組の概要)</p> <p>新しい世紀を迎え、女子美術大学は美術・デザインにおける専門教育の継続と同時に、分野を横断する実践的教育を新たに加えることで、「芸術の力が人間力を高める」という教育理念の実現を目指している。この取組では、12 年前より医療・福祉施設などに壁画を設置する活動を開始し、現在 26 箇所の実績を有する。しかし単に絵を寄贈して喜んでもらうということではなく、大学と社会との連携を重視し、その社会的意義を学生自身に考えさせるサービス・ラーニングとしての位置付けを重視している。従って実施においては、計画書に基づいて全学一体となった組織的対応を行い、正課と有機的連携がとれるように図っている。また学習成果を学生が発表し、学外からの評価を直接受けることも取組の中の重要なプロセスとしている。学生達にとっては、共同の創作を通して専門分野毎に異なる方法論や感性を教え合い、日常の創作にも応用できる新しい気づきや発見のある学習活動となっている。</p>			
<p>(採択理由)</p> <p>この取組は、女子美術大学が建学当初から意を注いできたことのひとつである「弱者の心を癒す役割を担うものとしての美術作品の制作」を、美術・デザイン分野においても近年より重要となってきた「他分野の人々と連携」という視点から、教育課程に顕在化させたもので、その中核である「癒しの壁画プロジェクト」(医療・福祉施設に癒しの壁画を制作するプロジェクト)は 1992 年の開始以来、実績を積み重ねてきています。</p> <p>現在、学生が社会の現実をみずから認識・実感し、それぞれの知識と技能を生かして「地域社会との連携」のかたちで社会に貢献する活動を教育課程の中でもおこなうことがますます重要となっており、女子美術大学のこの取組は他の大学、短期大学の参考になりうるひとつの優れた事例であると言えます。</p> <p>美術と癒しとの関係についての研究を、制作からのフィードバックも生かして、深め、この取組がより有意義に展開することが期待されます。</p>			